

所長退任にあたって



岡部 徹

思い起こせば、2015年度から藤井 輝夫 元所長のもとで3年間、2018年度からは岸 利治 前所長のもとで1年間、合計4年間、本所の総務担当副所長を務めました。この役職は、トラブル処理が主で、難題が多く人に嫌われる仕事を中心でした。2019年から2年間は、社会連携担当の副学長として、全学の寄付集めなどの業務をファンドレイザーの方々と一緒に汗を流しました。この仕事は、総長や理事の代理として学外のVIPの方々に研究資金調達の協力をお願いするのが主なミッションであり、忙しいものの元気に明るく前向きな仕事が多かったように思えます。2021年から3年間、所長を務めることになりましたが、所長になる直前の2年間は、所の管理や運営業務からは完全に離れていたため、当初は戸惑うことも多々ありました。

副所長になる前は、総長補佐も務めておりましたので、いつの間にか、すでに10年間にわたり大学のマネジメントの仕事に関わってきたことになります。若い頃は、研究第一主義の学者であった私が、自身の研究とはおよそかけ離れた世界である大学の管理運営の仕事に携わることになろうとは、夢にも思っておりませんでした。これはひとえに、藤井先生はじめ諸先輩方が、私の得意とする産学連携や国際連携に目を付けていただき、大学のマネジメントの世界に誘ってくださったおかげです。

所長就任当初から、重点的に取り組むべき課題は「若手の教員が大いに成長できる研究・教育環境の整備」、「皆が、幸せに、意義の大きな仕事ができる組織作り」であると述べ、この課題に鋭意取り組んでまいりました。私自身も若いころには、先輩教職員の方々から、多大な支援をしていただきました。かつて私が受けた御恩のお返し（恩送り？）をするためにも、今は、私が皆様方を支援しなければならないと考えたからです。

私が所長に就任したのは、コロナ禍真っ只中でしたので、就任直後は、対面での大きなイベント等はまったく行うことができませんでした。新たな組織運営やイベントの企画をすると、若手の教員が振り回されることが多いため、若手の負担をできるだけ回避・低減したほうがよいとも考え、コロナ禍が明けてからも、大きなイベント等は新たに開催しませんでした。果たしてそのような消極的な方針が、長期的にみてよかったのかどうかは、私自身もわかりませんが、財政的には儉約型の組織運営となりました。

その結果、生研の財務体質はこれまでになく強化されたのではないかと考えています。しかし、その一方で、「ほぼ例外のない（資格面積以外の）課金」の取行など、所内の一部の構成員には嫌われるアクションをとった所長として、本所の歴史に名を刻むことになったのかも知れません。

面積課金の問題は、「任怨分謗」の境地で、取り組んだ勇気を奮わなければならない課題でした。「任怨分謗」とは、耳慣れない言葉ですが、「何か思い切った仕事をやる時には、決まって誰かの恨みを買う。だが、その恨みをいちいち気にしていたのでは、とても改革はやり遂げられない」ということです。所のリソースを最大限に有効活用するという観点から、長期的には、全ての面積に対し課金を行い、研究スペース資源を流動化させて効率的に運営するべきと考えています。

研究環境整備の一環として、所内構成員のコミュニケーションやネットワークが促進されるよう様々な施策も講じました。一例として、本所 弥生会が企画してくださったテニス大会、卓球大会、駅伝大会を支援し、私も鋭意参加しました。所主催のハロウィーンパーティや花火大会等のイベントにも頑張って参加しました。同じ職場で働くご縁を大切にすることが、研究成果のレベルアップにも繋がります。

新たな取り組みとしては、所内にウォーターサーバーを2か所、設置しました。このアクションの評価がよかったので、さらにコーヒーサーバーを設置しました。将来的には、本所内に、皆がくつろぎながら語らえる場が沢山整備され、所の構成員の対話が大きく進展する環境ができればと考えております。

私事ではありますが、ありがたいことに、所長在任中に、紫綬褒章を受章する栄に浴しました。この受章は、これまでの研究成果が評価されたものでしょうから、大学のマネジメントとは関係がありません。従いまして、管理職としての所長自らが、同時に研究推進のアクションをも、二足のわらじで実現できている本所の特性をアピールできたもの、と誇りに思っております。

所長在任中にも、いくつかの学術論文を筆頭著者として執筆しましたが、これからもチタンをはじめとするレアメタルの製錬やリサイクルの研究は、鋭意続けてまいります。

本所の活動は、多くの構成員の方々の活躍によって支えられております。事務部の方々には、本当にお世話になりました。学外・所外からも多くのご支援をいただきました。皆様に感謝いたします。

今年度からは、新しいリーダーの 年吉 洋 所長に新しいアイディアを存分に発揮いただいて、本所の活動が一段と活発化するものと期待しております。3年間、誠にありがとうございました。